



INVISIBLE CHOICE
BY THOMAS RIBOULET

<日本語解説書>

翻訳：平賀義達

(訳注:この本は、フランスのマジシャン Thomas Riboulet の INVISIBLE CHOICE という、「見えな
い」2 個のサイコロを振らせてある特定の数をフォースするやり方と、それを応用した18のトリックが解説さ
れています。基本原理さえ理解すれば、難しいテクニックなどは必要ないので、その分いろいろなプレゼンテ
ーションを取り入れる余地が十分にあります。そのため、解説されたトリックも BRAINWAVE や
BANKNIGHT、BOOKTEST、SYMPATHETIC CARD など幅広い現象になっています。

とにかく何にでも使える易しいフォーシング原理なので、基本原理を使って新しい手順を作るのも読者の楽
しみとなるかもしれません。しっかり学んでいただければ幸いです)

はじめに

私は人がする「選択」に深い興味を持ってきました。すべての場合において、それはまったくの自由意志で行われているのでしょうか:何を食べるか、ネクタイは赤にするか黒にするか等々です。我々の日々の生活は、重要性の差はあっても「選択」の連続です。無数の選択肢がある中で、我々はどうやってベストな「選択」をしているのでしょうか？

多くの人にとって、良い「選択」とはじっくり考えて行うものです。利害得失を考え、疑わしいものを排して、正しい「選択」へと絞り込んで行きます。いろいろな選択肢の中から「選択」という事は、その人が決定する勇気と、結果に対する責任を持つと言う事でもあります。ただそう思いつつも、すべては本当に人の意思によるものであるのか、何か見えない力が働くのか、という思いも心のどこかに残っているのです。

こうした考え方が、私のマジックに対するアプローチの根底にあり、今日皆さんとシェアする私が何年も秘密にしてきたやり方も例外ではありません。私のレパートリーに一貫して流れているテーマは「選択の重要性」です。「もし、こちらのカードを選んでいたら、どうなっていただろう？」とか、「もし、違う数字を選んでいたら、どうなったか？」等々です。

私の新しいやり方では、「選択」自体がトリックとなり、「私は本当にこの選択をしたのだろうか？」となります。皆さんがこのやり方に価値を見出してくれることを私は確信していますし、あなたの想像力を刺激してあなたの作品を作る助けになることと、その時に正しい「選択」をすることを期待しています。

2019年3月8日 Thomas Riboulet

HISTORY

(訳注:ここは、著者が2016年に INVISIBLE CHOICE のやり方を完成させるまでに参考とした本などを紹介した章です。

「MIND、MYTH、AND MAGICK」という本にある Thomas Alan Waters の「THE CRIMSON COUNT」という、Corvello によって考案された10／11フォースを使った「見えない」サイコロのルーティンを見たのがすべての始まりだった、と述べています。ただ、「フリーチョイス」という点で不満があったので、Peter Turner のメンタリズムのマスタークラスに入って、「7」のフォースを中心にしたサイコロのフォース全般を学んだりもしたそうです。

原文ではこの後に、「見えない」サイコロのやり方を極めるために、その後に参考としたトリックや本、マジシャンの名前などが書かれていますが、見ていただければ分かるので省略させていただきます)

PSYCHOLOGICAL PRINCIPLES(心理的要因)

マジックとは観客を現実から夢の世界に運ぶ物語であり、テクニカルな要素よりも心理的要素が重要な役割を果たします。単純なダブルリフトも心理的なミスディレクションを使えば、どんな見事なスライハンドよりも見破られることはありません。

この本のルーティンは皆、難しいスライハンドは使わずに、INVISIBLE CHOICE という易しいやり方をしています。という事は、それだけプレゼンテーション、セリフに力を入れられるという事です。

それにより客の心理を操り、客の共感を引き出すことが出来るようになります。

例えて見れば、巨匠 Alfred Hitchcock が彼の監督した映画で、巧みな筋書きにより客の心理を操り、最後に思わぬクライマックスを迎えるようなものです

クライマックスまでには物語の進展に緩急がありますが、マジックでも戦術的に計算された「間」は大切です。それは事態の進展を客が吸収し、理解するために必要です。それがないと、客はそのマジックについて行けなくなってしまう。これも常に考慮すべき1つの心理的な要因であり、演技を成功させるために必要なものです。演技の緩急、適切な「間」は、客の心理を「集中と息抜き」の間で往復させる、演技における大切な要素です。

「集中の頂点」では、客は注意力をマジシャンの手元に集中しており、不自然な動きをすることは出来ません。客が「ほっとする息抜き」の心理状態では、少々の不自然な動きも見過ごされます。「集中」も長くは続けられないので、そこに計算された「間」を入れることで、客の注意力、ガードは下がるのです。

もう1つ客の注意力をそらす心理的操作が「ミスディレクション」です。「ミスディレクション」自体もそのルーティンに則した自然なものでなければなりません。突然場違いなこと、動きをしても、怪しまれるだけです。この本のルーティンでも、「ミスディレクション」は活用されています。

「ミスディレクション」のベースにあるのは、「EYE TRACKING」という心理現象です。つまり、「誰かが何かを見つめていると、周りの人達もそれを見る」ということであり、例えば道で立ち止まって上を見上げてください。おそらく周りの人達も「何事か？」と上を見ることでしょう。マジックでは、さらにそれとマジシャンの体の動きが相まって、「ミスディレクション」が成立します。

マジシャンが借りた指輪を宙に投げたように見せて、「皆さん、指輪は消えたのではなく空中を移動中なのです」と言ってみれば、観客は「そんなことはない」と心のどこかでは分かっているながらも心理的に逆らえずにマジシャンと一緒に上を見てしまうのです。

本書のルーティンでは、そうした動きを伴う「ミスディレクション」ではなく、主にセリフによる「ミスディレクション」が行われます。つまり、セリフやプレゼンテーションが大事なのです。

「ミスディレクション」という「心理的誘導」についてもっと詳しく研究したい人は、Juan Tamariz の本「THE MAGIC RAINBOW」を読んでみてください。

こうして、ある程度事前に客の行動をどう操るかを考えておくことで、ルーティンから不必要な要素が除かれて洗練されたものになって行きます。

また客の心理として、見た演技を思い返すという事もあります。それは翌日かもしれないし、数年後かもしれません。しかし、ある心理学者が「人はすべてを覚えてはいない。もしすべてを覚えていたらその人はおかし

くなるだろう」と言っているように、客は強く印象に残ったこと以外は忘れて行くのです。

こうした選択的記憶はマジックには有利に働きます。現場では「あれ、おかしくないか？」などと感じたことも何時の間にか記憶から消えて行き、素敵なクライマックス、不可能性だけが残るのです。時にはなかったことまで付け加えてくれることさえあり、純粋な奇跡のように思い出してくれることもあるのです。

以上のような心理的要素すべてが相まって、INVISIBLE CHOICE を使ったルーティンを成功に導いてくれるのです。

THE PRINCIPLE（基本的やり方）

以下に基本的やり方を説明するために、フランスのマジック雑誌に発表された Fred Darevil のルーティンを例として説明します。

（基本の現象）

マジシャンは10数枚のペットショップの名刺の束をテーブルに置きます。「ペットショップに猫を買いに行ったが、種類が多く迷った」という話をしながら、名刺にいろいろな猫の種類が書かれていることを見せます。マジシャンの代わりに選んで欲しいと客に言います。

そのために、客には2個のサイコロを手に持っていると思わせられます。客にサイコロを振ったと想像させますが、2と3が出たとします。合計は「5」なので、マジシャンは名刺の束の上から5枚目の名刺を取り出します。

「ああ、とても良い選択でした。いや、本当に素晴らしい選択ですよ」

と言って、その名刺の裏を見ると「とても素晴らしい選択です！」と書いてあるのです。もちろん、他の名刺の裏には何も書いてありません。

以上のルーティンには、2個の「見えない」サイコロを使うという「INVISIBLE CHOICE」のやり方のエッセンスが詰まっています。一見ランダムな選択のようで、実は事前に決められた結論に導いているのです。

（必要なもの）

12枚くらいの名刺が必要ですが、テーマは「猫」以外にも何でもかまいません（訳注；もし自動車なら、カーディーラーの名刺を集めます）

（準備）

—以下省略—

（やり方）

カードケースから名刺の束を取り出したら、トップのマジシャンの名刺を取ってテーブルの前方に置いて、「もしこのマジックが良かったら、私の名刺を置いておきますので持って帰って、またご連絡ください」などと言っておきます。

まず、客にこう言います：

「私の妻の誕生日が近づいているので、子猫をプレゼントしたいと思っていくつかのペットショップに行きました。でもどのショップの猫もかわいくて、決められないのです。そこで、今日はお客様のアドバイスによって決めたいと思うのです」

こうして、演技にある客を引き込むことは、観客全体の興味を引き付ける上でとても重要です。

さて、ここで名刺の束を

—以下省略—

(訳注:以下のトリックでは、使うカードや名刺などがいつも 12 枚ですが、これは2個のサイコロの目の合計の最大値が12だからで、12まで出る可能性があるからです)

さらなる策略

—以下省略—

LUCA VOLPE のアイデア

私のアイデアをイタリアのマジシャンであり、メンタリストである Luca Volpe に話したところ、以下のやり方を考えてくれました。

—以下省略—

こうしたやり方は、基本的な考え方から若干それるかもしれませんが、より広いオプションを得ることで新たな道が開かれる可能性が出て来ます。Luca Volpe に感謝です。

それでは、INVISIBLE CHOICE を使った具体的トリックをみて行くことにしましょう。

BRAINWAVE EFFECT

これは伝統的「BRAINWAVE」エフェクトの私流のやり方です。

マジシャンは青裏デッキから12枚のカードを抜き出して、テーブルに表向きで置きます。客に想像上の「見えない」サイコロを2個振ってもらい、その合計数を聞きます。マジシャンはその枚数目のカードを抜き出して横に置きます。すると、他のカードは青裏なのに、選ばれたカードだけが赤裏なのです。すべてのものがあら

ためてもらえます。

(準備)

青裏デッキ1組と、赤裏カードが1枚必要です。赤裏カードを青裏デッキのボトム12枚のカードの中に入れておきます(訳注:原文は「トップ12枚」となっていますが誤りです。47頁の図も誤りです)。

(やり方)

マジシャンは青裏デッキを取り出して、これから10枚くらいのカードを使ったマジックをやると言います。デッキを表向きにしたら、12枚のカードを取り出します。客に12枚をテーブル上で48頁図3のように「WASH SHUFFLE」をさせます(VIDEO2参照)。客はカードの裏面を見ることなく、カードをミックスします。



これで、後は INVISIBLE CHOICE を行えば OK です。

THE RED PREDICTION

客にデッキから1枚のカードを選ばせたら、覚えさせてデッキの中に戻させます。そのデッキは客にシャフルさせてしまいます。

マジシャンは客にゲームをやろうといって、12枚のカードを裏向きに取り出します。そして、「見えない」サイコロを2個振るジェスチャーをしたら、客にもやってもらいます。

客は何の目が出たかを言います。例えば「4」と「2」だとします。それらを合計して「6」としたら、上から6枚目のカードをフェアに数え出します。

そのカードを表向きにすると、それが客のカードなのです。さらにそのカードが赤だとしたら、残りの11枚は黒のカードなのです。

(必要なもの)

—以下省略—

(やり方)

—以下省略—

PICKFORD BRAINWAVE

2018年の BLACKPOOL 大会で、私はイギリスのクローズアップマジシャン Paul Pickford に会いました。彼に私の INVISIBLE CHOICE のアイデアを話したところ、彼はすぐにあるヴァリエーションを考えてくれました。「1枚のカードだけが裏の色が違う」という BRAINWAVE の基本現象はそのままに、さらに「アウト(逃げ道)」の数を増やしてトリックの不可能性を強化してくれました。

(現象)

マジシャンは青裏デッキから、ハートの A~Q までは表向きで抜き出します。また、マジシャンは名刺を1枚テーブルの端に置きます。客に12枚のカードを表向きでシャフルさせながら、「これから見えないサイコロを使ったゲームをしたい」と話します。カードを置いたら、客に想像上の2個のサイコロを振って、出た目を言ってもらいます。

その目により特定されたカードを横に抜き出します。残りのカードの裏を見るとすべて青裏ですが、抜き出したカードだけが赤裏なのです。最後に名刺を見ると、選ばれたカードの名前が書かれています。

(必要なもの)

青裏デッキからハートの A~Q を抜き出し、「3」を赤裏のカードと入れ替えたなら数値順に並べてデッキのボトムに置きます。次にハート以外の3枚の「7」をデッキの中に表向きでバラバラに入れておきます(60頁図10)。

名刺の裏に、「ハートの3」と書いておきます。

(やり方)

デッキのフェースから12枚のカードを取りますが、客にはフェースを見せません。また、1枚違う裏の色があることも見せないように注意します。

客に、「これからある印のカードだけを使うのですが、何だと思いませんか?」と聞きます。「ハート」と言ったら、客の直感をほめます。外れたら、「ああ、惜しかったです。ハートなんです」と言って、表向きでパケットを渡してテーブル上で「WASH SHUFFLE」をさせます。カードの裏は見えません。

ここで INVISIBLE CHOICE を行いますが、ここではいくつかの「さらなるアウト」が用意されています。

—以下省略—

(別のアイデア)

Paul はまた以下のアイデアもシェアしてくれました。

「見えない」サイコロをマジシャンと客が1個ずつ持ちます。まずマジシャンがサイコロを振って、「1」の目が出たと言います。次の客に振らせますが、

「この結果は我々の心の中で創られたランダムなものです。私は「1」と思い、あなたは・・・」と言います。この

場合、客の目が何であっても対応出来るのです。

—以下省略—

Paul、あなたの素敵なルーティンをシェアしてくれたことに感謝します。対応出来るサイコロの「目」の数を増やして、INVISIBLE CHOICE の幅を広げてくれました。

MENTAL OPENER

私の友人であるマジシャンの Guillaume Botta は、INVISIBLE CHOICE のコンセプトを使った彼のペットトリックをシェアしてくれました。トリックの構成とやり方の双方について賢く巧妙なものであり、是非ご紹介したいと思いました。

(現象)

客に想像の世界でポケットからデッキを取り出してもらい、広げたら1枚のカードを選んでもらいます。それを覚えたら、デッキのトップに移してもらいます。

ここで客には現実の世界に戻ってもらいます。テーブルの上にずっと置いてあった1組のデッキをケースから出して客にトップカードを見てもらうと、なんとそれが客が想像の世界で覚えたカードなのです。

(必要なもの)

—以下省略—

(やり方)

—以下省略—

(さらなるアイデア)

—以下省略—

このルーティンをシェアしてくれたことと、INVISIBLE CHOICE プロジェクトに対する様々なアドバイスに対し、Guillaume Botta に深く感謝します。

SYMPATHETIC CHOICE

マジシャンはハートの A から9までを見せてからシャフルします。客に想像上の2個のサイコロを振らせますが、「4」と「3」の目が出たと言ったとします。合計は「7」なので、9枚の裏向きパケットの7枚目を表向きにすると「ハートの7」なのです。

次にずっとテーブルに置いてあったケースから、スペードの A から9までのパケットを取り出して、ハートのパケットと並べて置きます。両方のパケットをトップから同時に開けて行くと、両方のカードの順番は、表向きカードも含めてすべて一致しているのです。

(参考)

この「SYMPATHETIC CARD」エフェクトはカードマジックのクラシックの1つであり、古くは1769年の Gilles-Edme Guyot の本に見られます。基本的な現象としては、1つのデッキから選んだカードが、他のデッキの同じ場所から出て来るというものでした。それ以来、無数のヴァリエーションが発表されて来ましたが、このトリックのヒントを得たのは Jorg Alexander の「SYMPATHETIC TEN」でした。

(準備)

まず、ハートとスペードの A から9までをそれぞれ順番に並べます。裏向きのトップを A にします(76頁図12)。

(クライマックスのために使われるやり方)

—以下省略—

(やり方)

—以下省略—

★ 以上、基本原理を含む 21 手順を解説

★ イラスト多数、ハンドリング解説動画 8 種提供

日本語説明書©2025 FTM: *Feather Touch Magic Inc.*

販売: (有) フェザータッチ MAGIC

www.FTMagic.JP

